



釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔①

牛飼いの傍ら2005年に始めた水彩で、14年道展新人賞を受賞。自宅の農業用ハウスから見る日常の風景を光と影のコントラストで表現した「これからの日」が評価され、17年には会友となった。このほか09年にはふるさと別海町の海辺を題材にした空想画「野付潮騒」で第10回日美絵画展大賞に輝くなど実力は折り紙付きだ。

土井上初枝さん(70)＝中標津町

結婚し1970年、町内の北中で就農。もともと油彩を描いていたが恩師の死去で中断。その後は、完成までの日数が短く、一つの描写で表情が変わる水彩に魅せられ転向した。阿部啓明さんに師事し、牛を手放した2010年以降は年間3〜4作品のペースで描いている。

題材はさびた廃屋など年季の入った古い物で「つい目が行く」という。現在制作しているのは、自宅近くに放置されたままの壊れたコンクリート製用水路が藪

に包まれている作品で、題名は「去りて安らぐ」。役目を終えた産業廃棄物が自然に包まれ、誇らしく見える。「自分の人生を重ねているのかもしれないです」と土井上さん。今後も廃屋に光を当てた作品を描きながら「第2の人生を重ねていきたい」と話している。

(五味亜希子)



公益財団法人釧新教育芸術振興基金は2019年度釧新郷土芸術賞を3個人に贈る。受賞者の横顔を3回にわたって紹介する。

絵画

廃屋に光 人生を重ねる